

注意点 1



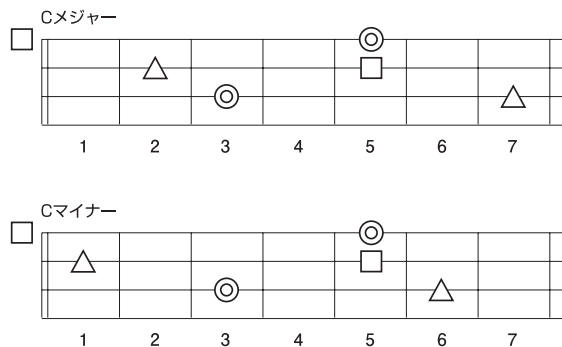
理論

ロック・ベーシストが アルペジオを使う意義

ベーシストは、どういう状況で**アルペジオ**【註】を弾くのか？ それは3つ考えられる。1つ目はギターとのユニゾン・プレイで、特に様式美系メタルに多い。2つ目は、3ピース・バンドにおいてギターがソロを弾いている時。ベースがルート音だけを弾いていると、コード感が出ないため、アルペジオを使うのは効果的だ。3つ目は、飛び道具的なプレイをしたい時。ここの一番のベース・ソロや、イントロがベースから始まる時などが当てはまる。やはりベーシストは、あらゆる場面に対応するために、アルペジオを使った演奏ができる心得を持っていた方がよいだろう（図1）。これを機会に、コードについても学んでみてほしい。

図1 アルペジオ・ポジション

◎ルート音 △3度音 □5度音



上記の音を組み合わせてアルペジオを作ろう！

注意点2



右手

右手の指順を整理してから 弦跳びピッキングを弾こう!

指押きの大きな難所と言える弦跳びピッキング（スキッピング）は、事前に右手の指順を整理しておくことが大切だ。細かく弦跳びをする竹フレーズをオルタネイトで弾くと、2弦をピッキングする指を固定できないので、サウンドにバラつきが出てしまう。また、4弦から2弦は距離があるため、正確に弦跳びし続けることも難しい。したがって、4弦を人差し指、2弦を中指に固定してピッキングするとよいだろう。ただし、4弦の音が2回連続する箇所は、人差し指を素早く動かすように注意してほしい（写真①～④）。人差し指と中指で音量差が出ないように気をつけて、ガッツで弾きとおそう！



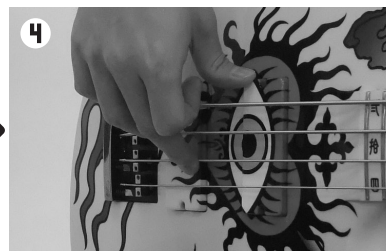
まず人差指で4弦をピッキング。



次も人差し指でのピッキングとなるので……



人差指を素早く移動して4弦を弾こう。



2弦のピッキングは、中指に固定すると良い。

～コラム6～

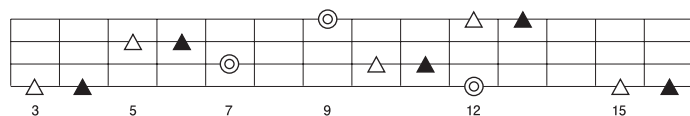
将軍の戯れ言

3度は、そのコードがメジャーかマイナーかを決める、デリケートな音である。したがって、3度を使う時には、鳴っているコードのメジャー／マイナーを正確に把握しておくことが大切だ(半音ズレるだけで、アンサンブルが崩れてしまうぞ)。逆に言えば、ベースでコード感を出したいなら、3度を使うことが有効となる。3度を上手に活用するためには、フレット上でのルート音と3度の位置関係を理解しておくとうまい(図2)。ルート音と同じ弦上なのか？ 1本上の弦で取り入れるのか？ 1オクターブ上で弾くのか？など、フレーズに合わせて、調整できるようにしてもらいたい。

コード感を生み出す鍵は“3度”にあり! ルートと3度の位置関係を頭に入れよう

図2 ルート音と3度の位置関係

◎ルート音(E音) △マイナー3rd(G音) ▲メジャー3rd(G#音)



3度の位置は、ルート音とセットで覚えると良い。